

製造・ソフト

# 日立OBがアナログ技術伝授

## NPPO設立し県と連携

### 理事長に日本サーボ社長

旧日立製作所高崎事業所(現ルネサステクノロジ高崎事業所)のOBらで組織するアナログ技術の伝承、普及を目的としたNPPO法人「アナログ技術ネットワーク」(事務局・高崎市上並樋町、略称「ATN」)が発足する。アナログ技術は県が今年度から掲げている産業政策「星雲プロジェクト」のなかでも、バイオやナノテクなど並ぶ重点育成産業の一つ。同技術を取り込みたい県内中小企業者へのコンサルや若手技術者の指導などを県と協力して行う。

本県は旧日立高崎のほかに、三洋電機東京製作所(大泉町)を有していることから、「アナログ集積回路」においてははかりの先進県(「ATN小南靖雄副理事長」)。しかし、欧米メーカーの追い上げや技術者の育成難などから、徐々に力を失ってきている。

特に技術者の育成については、デジタル技術などと比較すると設計が複雑になるため、「大学院を卒業してもコソを掴むのに5年はかかる(同)」。加えて、生産効率を高めるための分業が進むにつ

れ、設計者がシフトアウトタル的な把握をするのが困難になっており、技術者が育たない土壌になりつつあるという。ATNはこうした状況に歯止めをかけるべく、日立OBの小南副理事長が発起人となり昨年4月任意団体として発足。活動の幅を広げたいと思

利活動促進法の改正にもない、技術支援を目的にした団体でも法人格が得られるようになり、先月1日、認証申請した。早ければ7月上旬にも承認される。

理事長には日立系メーカー、日本サーボ(東京都千代田区)の堀江昇社長が就く。現在メンバーは10人。それぞれがアナログ集積回路、半導体、高周波回路などの

専門分野を持ち、今後は群馬大学の教授らも参加する見込み。

初年度は県から委託事業として技術者育成セミナーを中心に活動を行うとともに、大学と公的研究機関との連携を深める。

小南副理事長は「デジタル技術が叫ばれ久しいが一般的にデジタルと呼ばれているものほとんどに、アナログ技術が介在している。アナログ技術の発展なくしては、デジタル技術も発展しない。群馬県を世界に誇れるアナログ技術拠点にしていきたい」と話している。